4-P-17

地域で生活する知的障害者の口腔保健の課題に関する研究

大川直美[1)]
原 久美子[1)]　足立了平[1)]　御代出三津子[1)]　破魔幸枝[1)]　東 麻夢可[1)]

本研究は、知的障害者の口腔に関連した課題を明らかにすることを目的とし、神戸市内の障害者就労支援施設 P の研究に同意が得られた 20 名を対象に①歯科検診、②口腔に関する困り事や定期的な歯科受診の有無、BDR 指標を用いた歯磨きやうがいの状況、食事の時間や食べ方など 21 項目について単一回答および自由回答形式で回答してもらう質問紙調査、③株式会社GC製 グルコセンサーGSⅡを用いて咀嚼機能検査を行った。①の結果として、永久歯の現在歯数の平均は 28.7 本、処置歯数の平均は 3.2 本、未処置歯の平均は 0.3 本、喪失歯の平均は 0.5 本であった。②の結果として、「食べ方の特徴の有無」について「ある」と答えた者が 80%と多く、「ある」と答えた者に対して「食べ方の具体的な特徴」を問うと、「噛まずに飲み込む」と答えた者が 40%、次いで「食べるスピードが速い」と答えた者が 35%であった。③の結果として、調査対象者 17 名（調査協力者 20 名中 3 名が測定不能）の咀嚼能力検査結果は 100.5±60.8mg/dL（健常範囲:150mg/dL 以上）で、うち最大値は 188mg/dL、最小値は 14mg/dL であった。また、17 名のうち健常範囲の数値を超えた者は 4 名のみであった。以上のことから、知的障害者の食行動の特徴として、「食べるスピードが速い」、「噛まずに飲み込む」者が多いことが分かった。更に咀嚼機能検査の結果、噛む力が弱い者が多かった事から、今後口腔機能の低下が起こった場合、むせや誤嚥などのリスクが高まることが懸念される。

1）神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科